

18番	富田 宗一 議員		
項目	令和6年度予算大綱について	項目	
<p>(要旨)</p> <p>1. 経済動向及び財源確保について</p> <p>① 3年以上に亘って猛威を振るったコロナ禍も5類に引き下げとなり、一応の収束をみせた。この間、人心は疲弊し日本経済にも多大な打撃を与えた。今後の反転攻勢に望みを託したいところであるが、日本経済の現状と本市の経済的な立ち位置をどのように分析しているのか伺う。</p> <p>② 令和6年度の予算編成は川本市長が就任して初の本格予算編成であります。現状の瀬戸市の諸課題や市民ニーズを把握した上での編成であることと思いますが、どこに重点を置き、どのような思いを持って今回の予算を組みとされたのか伺う。また独自色は出せたとお考えか伺う。</p> <p>③ 財源の恒久的な確保について</p> <p>本市は財源不足を補うために市内公有地の売却を進めているが、限りある収入源として将来的な不安はぬぐえない。市は持続可能な取り組みを行っていくとしているが、今後の安定した収入源をどこに、どのような方法で求めていくと考えているのか伺う。</p>		<p>(要旨)</p> <p>④ 約27億円の市債と臨時財政対策債の借入れを行っていくとしているが、この借入れに対しての評価と財政計画の今後の見通しを伺う。</p> <p>⑤ 公共施設整備基金を約10億円取り崩すことで、今後の積み立ても踏まえた基金計画を進めていく中で、施設整備の優先順位及び、市民ニーズと将来の展望を考慮した計画との整合性が論点となると考える。</p> <p>公共施設に関して市長はどのような思いを持って整備をしていくのか伺う。</p>	

18番	富田 宗一 議員		
項目			項目
<p>(要旨)</p> <p>2. 都市像1・活力ある地域経済と豊かな暮らしを実感できるまち</p> <p>地域産業の振興と人材の活躍促進</p> <p>①企業誘致促進について</p> <p>市外から企業を誘致するにあたり、我が市では広大な平地を確保することが困難であるという弱点を抱えているが、種地についてはどのように検討しているか。また、新産業分野の企業誘致を図るとされている「新産業」とは具体的にどんな分野を想定しているのか。併せて企業誘致にはトップセールスの果たす役割は大きいと考えるが市長はどのように臨まれるのか伺う。</p> <p>②創業に挑戦できるまちづくりについて</p> <p>「せと・しごと塾」や「せとまちツクリテセンター」など、さまざまな創業支援、ツクリテ支援が掲げられているが、創業してツクリテとなった後にそれらの方々が本市で生活できるような収入を確保していただくことが定着につながるものとする。創業後の定着率向上に向けた支援策はあるのか伺う。</p>			<p>(要旨)</p> <p>③地域経済の活性化につながる地域資源を活かしたシティプロモーションの展開について</p> <p>ジブリパーク開園後の周辺自治体への観光波及効果は伸び悩んでおり、来園者が瀬戸市内へ寄ることなく移動するといった報道もある。まだ開園して間もないとはいえ、これまでと同様の取り組みでは「効果無し」の結果となることが予想される。市内には瀬戸ならではの、例えばやきものづくりといった特別な体験ができる施設も多数あり、ホテルも誘致できた。移動の利便性向上を含め、徹底的なPR活動が必要と考えるがいかがか。また、若い世代が集うことのできる環境整備について具体的な取り組みについて伺う。</p> <p>④中心市街地におけるホテルや体験型施設について</p> <p>市内の特に中心市街地の体験型施設、またホテル、飲食店などの施設の運営についてどの様に捉えてみえるのか。誘客に通じる施策や体験型施設の文化、技術の継承を施策にどのように反映しているのか伺う。</p> <p>⑤市内への誘客について</p> <p>市街地にはホテル宿泊客らが手軽に利用できる飲食店の不足が指摘されており、現状ではインバウンドも含め、観光客誘致の弱点となっている。これをどう克服していこうとされているのか伺う。</p>

18番	富田 宗一 議員	
項目		項目
<p>(要旨)</p> <p>⑥2年後の2025年には本市で「万博開催20周年」と「国際芸術祭あいち2025」が開催されることとなった。観光客誘致し、瀬戸の芸術文化を紹介するには絶好の機会と考えるが、どのようにPRを行っていくのか。また大綱の中ではインバウンドの本格的な回復を見込んだプロモーションの転換という言葉はあるが、かたや瀬戸の芸術文化の拠点のひとつと目されている「旧山繁商店」については全く触れられていない。同所をどう活用していくのか明確なビジョンを示すべきと考えるがいかがか。</p> <p>⑦産業振興について やきもの産業を本市の特色、魅力と考えるならば陶磁器関連事業者らへの支援は欠かせない。関東圏など一大消費地への積極的なプロモーションや国内外の展示会出展に際しての出展料補填などを拡充すべきと考えるがいかがか。</p> <p>⑧幹線道路など都市基盤の整備について 幹線道路施策として陣屋線整備や十三橋線の改良設計を挙げているが、少なくとも暁、穴田、山の田といった工業団地から東海環状道路に接続する幹線道路の整備は急務と考えるがいかがか。</p>	<p>(要旨)</p> <p>⑨市民生活の利便性を高めるためのDX推進について 市役所窓口でAIを活用した運用や、より市民が利用しやすい瀬戸市LINE公式アカウントの導入など、6年度はどこまで具体的に進めていくのか伺う。</p> <p>⑩公共交通について 本市の公共交通は、地域の要望を取り入れる中で運営されているものと考えているが、コミュニティバスについては、地域によってその利用率はまちまちである。これらのギャップをなくすためにデマンド方式を導入するなど効率的な運行を考える必要がある。品野地区では4月から半デマンド方式を試行するが、他地区においても試行してデータを取っていく必要があると思うがいかがか。</p>	

18番	富田 宗一 議員	
項目		項目
<p>(要旨)</p> <p>3. 都市像2・安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまち</p> <p>①効果的な子ども・若者支援策について 大綱には妊娠・出産・子育てへの支援の充実を図るとあるが、これまでの実績とさらなる充実を図るための具体的な施策をどう考えているのか伺う。</p> <p>②18歳までの医療費無償化について 10月開始予定としているが、実施すると決めたのであれば少しでも早く経済的支援を始めるべきと考えるがいかがか。また7年度からは恒久的に1億2千万前後が必要になると思われるが財源はどのように確保されるのか伺う。</p> <p>③保育園の待機児童について 現在保育園に入所できない待機児童は220人ほどとなっている。待機児童の解消は以前から言われ続けているが現状変わっていないことについてどのような認識を持っているか。また、特に外国人の子どもは保育園に行かないまま小学校へ入るので、学校としては日本語の分からない児童の対応に苦慮しているとも聞く。本市の保育園行政を改革するため現在の入園までの手続きやシステムを根本的に見直し、さらに保育士の増員などにも積極的に取り組むべきと考えるがいかがか。</p>	<p>(要旨)</p> <p>④教育方針について 大綱説明では「教育は人を育て、街を育てる」とあり、さらに学校・家庭・地域が連携し社会全体で教育を推進する「地域とともにある学校づくり」に取り組むとしているが、とりわけ学校と地域の連携においてはコミュニティスクールの充実が求められる。地域では自治会、公民館などの活動の活性化が学校にも良い影響を与えると考えるが、これら密接な関係が求められる諸団体の連携についてどのように考えているか。</p> <p>⑤コミュニティスクールについて 各中学校区にコミュニティスクールの設置を進めるとあるが、すでに先行して始まっているにじの丘学園のコミュニティスクールについては、5つの連区が機能的に連携する必要があるが、4年目となってもうまく機能しているようには見受けられない。コミュニティスクール会議も学期ごとに一回しかなく、形骸化している。このような現状で地域が学校を支援していくモデルができるのか疑問に思う。にじの丘のコミュニティスクール化を具体的にどのように進めていくのか伺う。</p>	

18番	富田 宗一 議員	
項目		項目
<p>(要旨)</p> <p>⑥不登校対策の充実について 近年全国的に不登校が増加しており、本市においても同様の傾向にある。令和4年度では小学生2.1%、中学生で6.8%の増加率となっている。これ以上の増加を防止するために「ここほっとルーム」が設置されたが、スクールソーシャルワーカーを増やすことも必要だと考える。手厚い対策が喫緊の課題と考えるがいかがか。</p> <p>⑦教科新設について 施設分離型小中一貫校としての、小中一貫教育の目玉として地域に根差した探究的な学習を行う本市独自の教科新設とは何か。また光陵中学校以外の中学校区についても、どのような考えで取り組んで行くのか伺う。</p> <p>⑧公園施設の配置と施設整備について 本市には児童遊園やちびっこ広場などが適正に配置されていると考えるが、野球やサッカーの練習などボールを使った遊びができる公園が少なく、そうした競技に親しむ機会に恵まれていない。市長提唱の「人づくり」は、勉学のみならず壮健な身体を育むことも含まれると思うが、公園整備の考え方を伺う。</p>	<p>(要旨)</p> <p>⑨中水野区画整理について 中水野駅周辺の土地区画整理事業は、都市計画マスタープランに謳う多極ネットワーク型コンパクト構造の実現に向けた大きな第一歩であり、昨年策定された立地適正計画において、都市機能誘導区域に設定されたエリアでの初めてのまちづくりであると考えます。市の骨格となる公共交通網、特に鉄道駅を中心とした今回の地域拠点整備の成否は、今後の瀬戸市のまちづくりの指標になる重要な事業であると考えますが、将来の瀬戸市に住まうまち・ひとに向けて、どのような決意で取り組んでいくのか伺う。</p>	

18番	富田 宗一 議員	
項目		項目
<p>(要旨)</p> <p>4. 都市像3・地域に住まう市民が自立し支え合い、笑顔あふれるまち</p> <p>① 地域包括ケアシステムについて</p> <p>現在の本市の地域包括ケアシステムは主に高齢者や障害者を対象としたものであり、説明のあった全世代型地域包括ケアシステムの充実が喫緊の課題であるとする。相談者本人のみならず、育児、介護、障がい、貧困など相談者が属する世帯全体の複合化、複雑化したニーズを的確に捉え、分野別の相談支援体制と連動して対応する体制が求められる。これを進めるためには、各課の連携と地域の協力、さらにはマンパワーが必要だと考えるこれをどのように進めていくのか伺う。</p> <p>②地域の生活環境の向上と安心安全な地域づくり</p> <p>プラスチック製容器包装類の分別収集や剪定枝回収を実施し資源化を促進するとともに、新たに資源物の臨時拠点回収を行っていきとあるが、間近に迫る尾張東部衛生組合晴丘センターごみ焼却場の建て替え事業を考えると可燃ごみの抜本的な排出抑制を進めねばならない。一部ごみは減っているとの主張もあるが、定めた目標値をクリアするためには相当高いハードルがあるものとする。具体的な可燃ごみ減量対策について伺う。</p>	<p>(要旨)</p> <p>③ごみ減量の本来の考え方について</p> <p>大綱に「適正な分別によるごみの削減」とあるが、分別ではごみそのものの総量は減らない。可燃ごみの減量が「ごみの減量」と考えているとするなら誤りで、ごみの総量を減らすことこそ本義である。分別が進み、プラスチック類の資源化を進めればその分の処理費用、さらには焼却炉の燃焼温度をキープするためにプラスチックに代わる燃料も必要となりコストは嵩むこととなる。ごみの相対的な減量に対する施策についてどのような具体案を持っているのか伺う。</p> <p>④防災減災対策を確実に進めるために</p> <p>市長は大綱の冒頭で能登半島地震を教訓として、本市における防災・減災対策を着実に進めていくと示された。また新たな消防の地域間連携と協力体制を構築し、消防力の強化を図るとし、その先駆けとして名古屋市等との指令管制システムの共同化を行うこととしている。しかしながら、その防災体制の要ともいべき消防本部庁舎は、築50年を迎え、施設の老朽化も著しい。仮眠スペースなども十分とはいえず、署員は難渋を強いられている。また現在の所在地は緊急車両の出入庫も決してスムーズに行えるとは言えない。間近に迫るとされる東南海、南海地震に備えるためにも、本部の移転、建て替えは急務であるとする。現在本部建て替え予定地である市役所西隣であれば、緊急時において危機管理本部である市役所と災害支援本部となる消防本部な近接し、緊密な連携を取りながら災害に対処できるものとするのかどうか。</p>	

18番	富田 宗一 議員		
項目		項目	
<p>(要旨)</p> <p>⑤市立図書館の今後の在り方について</p> <p>県内にある37市の中央図書館の延床面積を単純に比較すると、本市の図書館は35番目にランクされる。市では中央図書館、地域図書館、パルティ瀬戸ライブラリーを連携させて延床面積の狭さをカバーし、サービスを提供している。しかし、本来の図書館はそこに足を運べば全てが揃っており、「大人も子どもも一緒にゆっくり楽しめる」場所というのが本来の姿と考える。平成28年の市民アンケートでも図書館の立地はもっと行きやすい所に移すべきとの市民意見が圧倒的であった。簡易的な改修やリノベーションで30年近い長寿命化を図るのではなく、多くの市民から支持される図書館の移転を検討し、伝統ある文化芸術都市瀬戸市にふさわしい図書館とすべきと考えるがいかがか。</p> <p>⑥パブリックコメントによると、立地の不便さについての意見が多くあった。このままりノベーションを進めると、今後30年間同じ場所での図書館となる。立地についての市民の意見をどのようにとらえてこの計画となったのか伺う。</p>	<p>(要旨)</p> <p>5. 上下水道事業について</p> <p>①下水道事業について</p> <p>現状の下水道事業は、その事業が進むにつれて赤字が積み重なり、一般会計からの繰り入れが増大する事業となっている。今後も審議会などの答申を受けながら進めることとなるが、負担感が増しつつある市民に対し、どのように説明し、理解を求めていくのか伺う。</p> <p>②災害に強い上水道インフラについて</p> <p>瀬戸市は地盤が固いので耐震適合率が70%入っていると聞くがその内の耐震管は10%しか入っていないと聞くが、災害が起きて一番大事なのが、ライフラインをどのように捉えているのか？また浄水場の施設整備の対応を今後どのように対応していくのか伺う。</p>		